

## 目標と実績

2014 年度のレスポンスブル・ケア活動における環境保全の取り組みの目標と実績は以下のとおりです。

### 2014 年度目標と実績の総括

★★★目標達成 ★★目標ほぼ達成 ★さらに取り組みが必要

推進項目	2014 年度目標	2014 年度実績	自己評価	2015 年度目標
環境異常の撲滅	環境異常ゼロ	環境異常ゼロ	★★★	環境異常ゼロ
環境負荷の低減	(1)大気汚染有害物質の自主管理計画の推進			
	アクリロニトリル排出量 12トン以下	11.2トン	★★	アクリロニトリル排出量 10トン以下
	(2)産業廃棄物のゼロエミッション化計画の推進			
	2013 年度実績 1.3トン以下	6トン	★	5トン以下
	国内グループ会社産業廃棄物最終埋立量 7.5トン以下 (埋立処分率:2007 年度排出量基準) 0.3%	最終埋立量 10.6トン	★	国内グループ会社産業廃棄物最終埋立量 7.5トン以下 (埋立処分率:2007 年度排出量基準) 0.3%
	(3)省エネルギー全社プロジェクトの強化			
	エネルギー原単位を 1990 年度比 65.1% (生産量当たり)	エネルギー原単位 1990 年度比 62.9%	★★★	エネルギー原単位 1990 年度比 64.5%
CO <sub>2</sub> 排出原単位を 1990 年度比 68.2%以下	CO <sub>2</sub> 排出原単位 1990 年度比 65.3%	★★★	CO <sub>2</sub> 排出原単位を 1990 年度比 67.5%	

2014 年度は環境異常※ゼロを達成しました。

また、日本ゼオンの事業所では 2011 年度に達成した産業廃棄物ゼロエミッションを継続しています。グループ企業については、2007 年には 600 トン以上最終埋立処分をしていましたが、2012 年以降、10 トン前後にまで削減することができており、これは 2007 年度の産業廃棄物の 0.4%程度に相当することから、ゼロエミッション状態と考えています。今後はさらに削減を進め、日本ゼオンの事業所と同様に 2007 年度発生量の 0.1%以下を目指します。

アクリロニトリルの排出量削減は、対応設備の導入も含め、現在検討中です。

今後も継続してエネルギー原単位および CO<sub>2</sub> 排出原単位の年平均 1%削減に取り組んでいきます。

※ 環境異常

社規に、「環境関連の法令に定められた基準はもちろん、自らが定めた基準を外れたとき、あるいは、基準は外れなかったが、標準どおりの処置では基準を外れる可能性があったとき、および、基準は定めていないが、苦情を受けたとき、あるいは放置すれば苦情を受けた可能性があったとき。」と定義されています。